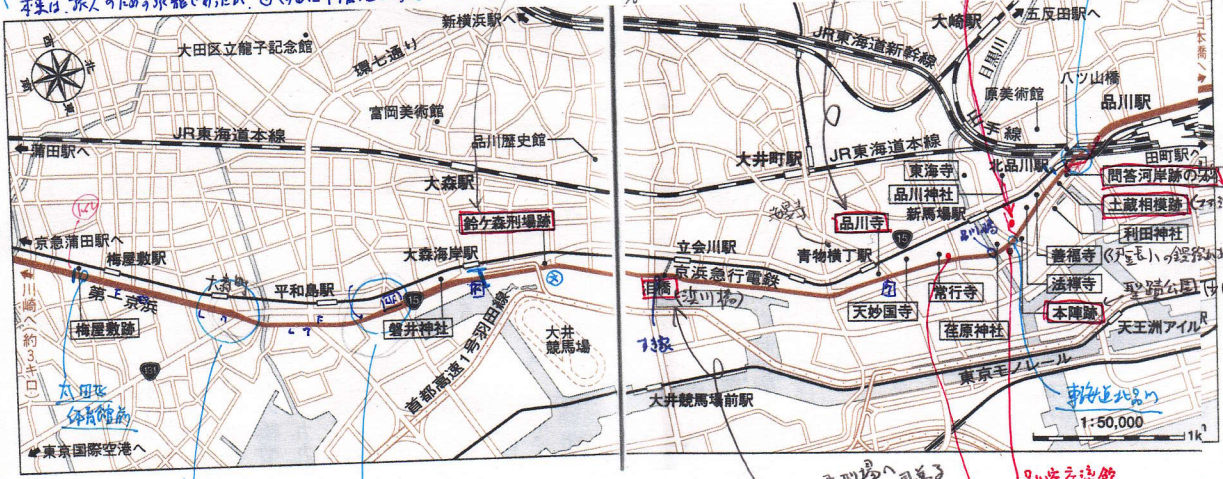
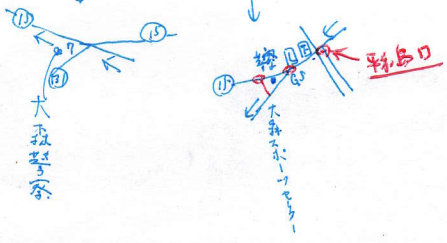
1

<品川宿> 9.8km

江戸を去る旅人との別れを惜しんで見送る人と、江戸に下る旅人を出迎える人で、かつての品川宿はいつもにぎわっていた。また、御殿山が桜の、海晏寺が紅葉の名所で、江戸近郊の遊興地としても栄えた。本来は、旅人のための旅籠であったが、近くの武士や僧侶も得意客になっていた





<東海道品川宿おはみ処>

北品川と南品川の宿場場所に計七カ所設置。手芸品や旧家、天竜寺、品川寺の境内などに常時、緑色が用意されている。

「宿帳おはみ処」で10円で写真帳マップが用意されている

幕末、御殿山にイギリス公使館が建設されると、長州藩の高杉晋作や久坂玄瑞らは、この土蔵相模で密議し、焼き打ちをかけた。

2